

そよ風

- 1 年頭のあいさつ
- 2 東大和フェスタ
- 3 東大和フェスタ
- 4 東大和フェスタ
- 5 東大和フェスタ
- 6 クリスマス会
- 7 学会参加報告
- 8 院内研修
人事異動
編集後記



2011 年・年頭のあいさつ

院長 倉田 清子

あけましておめでとうございます。

職員の皆様、ご家族の皆様、健やかに新年を迎えておられることと存じます。12 月には病棟にインフルエンザが発生しましたが、大流行にならずに終息したこと本当にほっといたしました。これも職員の常日頃の努力とご家族の皆様のご協力の賜だと改めて感謝しております。昨年はいろいろなことがありましたが 2 つのニュースを取り上げます。

まず、新政権により障害者自立支援法が廃案となり、次の障害者総合福祉法(仮)までの繋ぎ法案が可決したということで、流動の一年でした。既に報道などでご存じでしょうが、この繋ぎ法案は 28 年頃までのまさに繋ぎであります。一昨年に北浦会長らによってまとめられた「障害児支援の見直し検討会」の意見が取り入れられている内容なので取りあえずよかったかなと思っております。

12 月にもう一つのニュースが入りました。東大和療育センターの指定管理者として守る会が都の選定委員会の候補者に上がりました。この委員会において好成績を得て選ばれたということは皆様の日常療育が評価されたということなので素直に喜びたいと思います。そして、先の東京都議会において可決され、23 年度から 5 年間の運営が正式に任されました。今後、職員の皆様は都民の税金を使って運営されているという指定管理の意味をもう一度よく考えて心を新たにして日々の療育に励んでください。

こうした指定管理の更新継続という機会をとらえて、昨年、中期計画を策定しました。この中期計画の原点は、「東大和を利用して本当に良かった。」と言ってもらえるような利用者中心の計画であり、また、職員にとっては「センターの将来ビジョン」をハッキリと示したものです。これからの進め方は、言うまでもなく計画を作ること自体が目的ではなく、計画をいかにして実行し効果を上げることが大切なので、職員が具体的な行動を起こせるよう、23 年度から 5 年間の各年度別計画を作成し確実に実行していく予定です。

どんな時代でも私達は重症児者の方々のための日常療育を落ち着いて行っていくこと、そして、いつも守る会の理念である「最も弱いものをひとりももれなく守る」という姿勢を貫いていくことです。迷うことがあったらいつでもこの基本に立ち返って業務を遂行していくことが大切なことだと考えています。

●○○●東大和療育センターフェスティバル○○●

夢を描く行事 東大和療育センターフェスティバル

指導員 高井 直人



「えっ、第 1 回なんですか？」受付でリーフレットをお渡しした際、何度かかけられた言葉です。確かに、開設から 18 年たって初のフェスティバルっていうのは、意外に映るのかもしれませんが。でもこの行事は、今だからできる・・・少し大げさですけど、満を持して登場した行事なんだと思っています。利用者や家族の皆さんの様々なニーズに応えられるフェスティバル、地域

の皆さんが遊びに出かけてみたくなるフェスティバル、この二つを両立させるにはどうすればよいのか？ 18 年の間に培った経験と知恵をフル活用して、15 の催し物が企画されました。そして、どの催し物にも努力と工夫のあとが感じられ、多くの皆さんの高い満足へとつながりました。

「熱気球に乗れたらいいなあ」、「動物と触れ合えたらいいなあ」一見、夢物語のようなことを実現してしまうだけの力がこのセンターにはある、そんな気がしてなりません。第 2 回、第 3 回ともっともっとたくさんの夢物語を描いていきましょう。



催し物一覧（名称と内容）

1	制作展（利用者さんの作品展示）
2	ライブハウス [フィルモア イースト大和]（職員バンド）
3	三味線奏者 KEN さん（三味線弾き語りライブ）
4	多摩っ子バブルス（歌とダンスのショー）
5	アクティビティコーナー（30 分でできるミニ工作教室）
6	世界写真館（世界をバックにした合成写真）
7	不思議な実験室（不思議な科学体験教室）
8	幻の第 5 病棟（お化け屋敷風の五感刺激体験空間）
9	似顔絵コーナー（似顔絵師による人物画）
10	わくわく動物ランド（小動物とのふれあい体験）
11	お洒落！フェイスペイント（顔や体にワンポイントメイク）
12	三輪自転車試乗体験コーナー（理学療法で使用する乗用機器の体験試乗）
13	空に浮かんでみよう！（熱気球係留体験搭乘）
14	お宝 Get! スタンプラリー（場内 3 か所のスタンプを集めて景品と交換）
15	ディッピングドッツ・アイスクリーム（つぶつぶサラサラの新感覚アイスクリーム）

第一病棟

幻の第五病棟

指導員 三村 英明



10月16日、外では熱気球が上がり、裏庭に動物園が作られるなど、新行事である東大和療育センターフェスティバルは華々しくスタートを切りました。

しかし、『幻の第5病棟』は本当に『幻』なのでは？と思われるほど閑散としていました。「やはり素人企画、こんなものなのか？」と半ば諦めの気持ちも芽生え始めていました。しかし午後に入ると急に混雑し始め、ついには30分待ちの大行列。「キャーキャー」と驚いてくれた看護学生、本気で泣き出してしまうほど怖がってくれたお子さん、「あら〇〇さん、お久しぶり」と、この程度では全く動じない、さすがの貫録を見せる百戦錬磨の利用者 & ご家族などなど、最終的には沢山の方々

に入場して頂きました。

遊園地にある本格的なお化け屋敷には少し及ばなかったかもしれませんが、普段とは少し違った東大和療育センターを体感して頂けたのではないかな？と思っています。来年はどうやって皆さんを驚かせようかな？



第二病棟

世界の写真館

看護師 下見 法子

楽しかった東大和フェスティバル。今は、もう冬が近づき、あの楽しかったフェスティバルの頃がとても懐かしく感じます。

第二病棟では世界の写真館を出展させていただきました。世界のいろいろな観光地を背景にして合成した写真を作成するというものでした。利用者の方から一般の方まで、たくさんの方に利用していただけて良かったです。写真は一枚一枚、手作業で作成した為、各病棟への配布には時間がかかってしまい、本当に忘れた頃のお届けになってしまいましたが、喜んで頂けたでしょうか？第二病棟の中では額にいれて、ベットサイドに飾っている利用者もいて、撮影係だった私としては、とっても嬉しいです(^O^)

背景は... 合成ですが、皆さまにとって、楽しかったフェスティバルを思い出せる、記念の一枚になってくれたらいいな♪



第三病棟

わくわく動物ランド

指導員 奥野 智則

わくわく動物ランドに、ふれあいコーナーでお馴染みのポニーやひつじ、ウサギやモルモットをはじめ、ちょっと変わったふくろうやフェレット、イグアナなど、合計21種類、200匹の動物たちがやってきました。

センター初の試みだったこともあり、たくさんの方達が訪れ、動物たちとのふれあいを楽しんでいました。ちょっと怖いけど...、動物たちに餌をあげたり、撫でたりしたとき、はじめは引きつっていた顔が、徐々に笑顔にかわっていく、皆さんの嬉しそうな表情がとても印象的でした。また、カメの上に乗ったり、イグアナやオームを肩の上に乗せたりなど、普段では体験できないことも楽しめました。



そういえば、へびもいましたね。へび使い?の職員が近寄ると、「キャ〜>_<」「こっちに来ないで!」と言っていた皆さんも、最後には首に巻いて記念撮影!へび使いも大満足でした!

最後に、遠く茨城県から来て頂いたスタッフの皆様と動物たち、ご来園して頂いた皆様に感謝致します。

第四病棟

不思議な実験室!?

指導員 森田 英之

「あれあれ??」と期待の眼差し。「ああ〜!!」と期待から落胆への溜息…(T_T)。「おぉーしっ!!」と歓喜の雄叫び。

この企画は、100円ショップで手に入る身近にある物を使って実験する企画として、「くるくるプロペラ」、「不思議マジックステッキ」、「ピンポン玉浮上」、「風船紙コプター」などなど、メインでは「大しゃぼん玉」の中に入っちゃおう!とわくわくドキドキ体験にチャレンジしました。



一番張り切っていたのは親御さんカメラマン。シャッターチャンス逃しまいと真剣なまなざし。1.2.3ではなく、〇〇さーん!で棒を持ち上げます!…。結果は…。失敗を重ねて人は強くなり成功していくのです…(T_T)

山あり谷あり。まるで人生模様を表すかのような笑顔ありガッカリありの貴重なひとときを利用者さん達と共に楽しみましたよ!ありがとう!!来年こそは!!

通所

ライブハウス“フィルモアイースト大和”

指導員 水野 豪

爽やかな秋空に気球が舞い、動物も駆け回る東大和フェスティバル。その頃屋内ではは…。

いつも大勢の方々が診察やお薬を待つ医事外来待合室。土曜日の今日も沢山の山の人ばかり。でも様子は普段とか〜なり違う!

でっかい歌声、胸をつんざくギターや三味線、ずっしり響くベースにドラム、そして溢れる歓声に手拍子!そう、ここはライブハウス。その名も“フィルモアイースト大和”!

第1部では三味線弾き語りのKENさんが登場。ソーラン節、東京音頭、八木節といった有名な民謡を、迫力たっぷりに歌い上げるKENさん。いつもうつむきがちな方も、思わず目を見開いて一緒に歌い出す凄さ!

第2部では専属バンド「ツーショーズ」が、リクエスト曲を立て続けに演奏。「昭和枯れすすき」に「北風小僧の寒太郎」。センターで毎日耳にするお馴染みのナンバーを大音量で演奏するとは…。歌う人や踊る人や叫ぶ人、思い思いに楽しむ様子はまさにロックフェスティバル!拍手と歓声と笑顔と共に、一日限りのライブハウスは幕を閉じたのでした。



リハビリテーション科

訓練科ランド

作業療法士 水野 充美

東大和療育センターフェスティバルでは「制作コーナー」、「三輪自転車試乗体験コーナー」と「制作展 2010」の展示を行いました。

制作コーナー

制作では、クリスマスツリーの形のコルクボードでクリスマスオーナメントを作ったり、巾着風の匂い袋の制作や、かえるのおもちゃなどを一緒に制作しました。

センター利用者やご家族だけでなく、一般の方からも多くの参加がありました。皆さんそれぞれ、思い思いのすばらしい作品を作り、持って帰られていました。

三輪自転車試乗体験コーナー

フェスタでは天気もよく、絶好のサイクリング日和でした。入所・通所・外来の方々問はずの積極的な参加があり、大盛況でした。センター内の敷地をぐるーっと 1 周し、自転車をこいで風を感じる楽しさを体いっぱいを感じているようでした。みなさん表情良く楽しんでいました。

制作展 2010

昨年 10 月から 1 ヶ月の間、1 階エントランスと廊下にセンター利用者の方々と制作した作品を展示しました。

今回も数多くの方々からアンケートを通じてコメントを頂きました。その一部をご紹介します。

毎年、この時期になると作品展の作品を見るのが楽しみです。
(外来部門 保護者の方より)

毎回、素敵な作品ばかりでとても楽しく拝見しています。
(センター職員より)



とても暖かく、すてきな作品ばかりでした。感動しました。
(入所部門 保護者の方より)

今年も力作ぞろいで楽しく見えています。お菓子やパンのおいしそうなこと!思わず手が出ます。
(入所部門 保護者の方より)

どれも工夫を凝らした作品ばかりで楽しめました。アイデアがいいですね。
(外来部門 保護者の方より)

クリスマス会 2011



今年も当センター各病棟で盛大に催されました。
写真からも楽しそうな様子が伝わってきます。





学会参加報告



— 第 3 回国際知的障害学術会議ヨーロッパ地域会議に参加して —

医長 曾根 翠

国際知的障害各術会議は世界じゅうの知的障害に関わる仕事や研究をしている人たちと知的障害児(者)、その家族で作られている学会です。

世界会議は 40 年以上前から 4 年ごとに開かれていて、地域会議はアジア・環太平洋、南北アメリカ、ヨーロッパの 3 カ所で、同じく 4 年ごとに開催されています。昨年はシンガポールで第 2 回アジア・環太平洋地域会議が、今年は第 3 回ヨーロッパ地域会議が 10 月 20 日～22 日にローマで開かれました。ローマは歴史の色濃い建物で埋め尽くされている街でした。天気は 2 日目の朝に少し雨が降っただけで、とても恵まれました。今回の参加者は 500 名を超えていましたが、日本からは 40 名ほどの参加があったそうです。



曾根発表中

重症心身障害についての発表は、心理士や言語聴覚士のからのものが多かったですが、イギリスの、20 歳代の重症心身障害児を持つお母さんが、ポジショニング(座ったり、横になったりするときの姿勢調整)を全ての重症心身障害児が受けられるようにしてほしいと発表されていたのがとても印象に残りました。日本では当たり前のように行われているポジショニングについて、イギリスではなかなか指導を受けられないことを知ってとても驚きました。私は重症心身障害者の悪性腫瘍についての調査結果を報告しました。

学会中に重度重複障害児(者)(重症心身障害児(者)とほぼ同じ)に関わる研究をしている人たちのグループミーティングにも参加しました。若い研究者の育成、療育に関する情報提供や研修会の企画、重度重複障害児(者)の認知度を高める方法などについて話し合われました。このグループは機関誌を年 1 回発行していますが、少しでも多くの人に見てもらえるよう、各国語に翻訳することを依頼されました。昨年の「両親の集い」に日本では機関誌の大まかな内容を掲載しています。興味のある方はそちらもご覧ください。

学会中に重度重複障害児(者)(重症心身障害児(者)とほぼ同じ)に関わる研究をしている人たちのグループミーティングにも参加しました。若い研究者の育成、療育に関する情報提供や研修会の企画、重度重複障害児(者)の認知度を高める方法などについて話し合われました。このグループは機関誌を年 1 回発行していますが、少しでも多くの人に見てもらえるよう、各国語に翻訳することを依頼されました。昨年の「両親の集い」に日本では機関誌の大まかな内容を掲載しています。興味のある方はそちらもご覧ください。



▲学会場のひとつ
Grand Hotel Palazzo Carpegna



◀フォロ・ロマーノから見たコロッセオ

▼ナヴォナ広場にて



10・11・12月の院内研修

基礎コースⅠ	・呼吸ケア ・看護(療育)記録
基礎コースⅡ	・安全管理 「職場における感染防止対策」 ・2年目のまとめと課題(第1回)
基礎コースⅢ	・摂食嚥下障害ケア ・呼吸ケア ・療育(看護)記録
一般コース	・療育研究(第4回)(第5回) ・施設見学 (島田療育センター・秋津療育園) ・在宅支援 (西武訪問看護事業部、西東京市・立川市・武蔵野市府中市)
専門コース	・摂食嚥下障害ケア(第3回) ・呼吸ケア(第3回)(第4回)

1・2・3月の院内研修予定

基礎コースⅠ	・1年目のまとめと課題	2/4	(金)
基礎コースⅡ	・2年目のまとめと課題(第2回)	2/18	(金)
基礎コースⅢ	・3年目のまとめと課題(第1回)	3/4	(金)
一般コース	・プリセプター	3/4	(金)
	・施設見学 (東部療育センター・ びわこ学園医療福祉センター・ 旭川荘療育センター)	1/20	(木)
		24	(月)
		27	(木)
	・リーダー研修	2/8	(火)
	・療育研究(第6回)	1/21	(金)
専門コース	・摂食嚥下障害ケア(第4回)	1/11	(火)

そよ風第 63 号

編集 院内報そよ風編集委員会
 発行日 平成 23 年 1 月 15 日
 発行 東京都立東大和療育センター
 東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10
 ☎ 042-567-0222
 印刷 有限会社 はじめ印刷
 ☎ 042-560-3031

編集後記

そよ風新年号はいかがだったでしょうか。新年を迎え、各病棟の入口は門松や鏡餅など、お正月を彩る装飾で華やかでした。

最近では元日からデパートやコンビニが開いていたりと、以前より正月の風情が薄れてきてはいますが、それでもセンター裏の公園で幾つもの凧が大空を飛んでいる様子を見ると「やっぱり正月はこうじゃなくちゃ!」と感じた、そんなボクの正月勤務のひとコマでした(T.S)。